

小学校第5学年 道徳学習指導案

1 主題名 情けは人のためならず【内容項目A-(2)正直, 誠実】

2 教材名 「手品師」(出典『5年生の道徳』ぶんけい)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

人は様々な人と出会い、その人たちと関わりながら生きている。時には悩んだり苦しんだりすることもあるが、互いに思いやることにより温かさを感じ合い、言葉に表せない心地よさの中で、明るく爽やかな心で生活でき、人の心は互いに浄化し合っているように感じる。思春期や10歳の壁といわれる最上級生に近いこの時期には、ライバル心や競争意識が生まれ、自己利益を追求し始める。自己利益を越えた思いやりのある行為ができたときのすがすがしさに出会うとき、新たな自己の生き方の信念をもち、真心のある行為につながっていくと考える。

○児童の実態について

本学級の児童は、当番活動や委員会活動において、自己の役割を行い、中には仲の良い友だちを手伝う思いやりのある姿勢も見られる。

一方、教室や校内のゴミや落とし物に気づいてはいるが、進んで拾おうとしない実態もある。トイレのスリッパ並べ、さらには授業中の話し手への反応や返事、挨拶もできてない場面もある。役割を充てられた部分だけをやり遂げられるようになっているが、役割以外は無関心な様子も少なくはない。相手の気持ちや周りの様子等をじっくり考えて、よりよい行動にうつせるようになることが、自己成長につながることに気付かせたい。

○教材について

この資料は、いつかは大劇場のステージに立てる日を願って日々腕を磨いている、売れていない手品師の話である。手品師は、働きに行っている母親を寂しそうにして待っている男の子に手品を見せ、元気付けてやった。男の子の嬉しそうな表情を見て、手品師はまた明日も今日と同じ場所で手品を見せることを約束する。その晩、友人から連絡が入り、代役として大舞台のマジックショーへの出場依頼を持ち掛けられる。そのマジックショーは、男の子と約束した明日の話であった。手品師にとっては思ってもないビッグチャンスである。しかし、手品師は男の子に手品を見せる方を選択する。

自分にとって大切なことは何か、その気持ちに至るまでの葛藤を感じ取ることができる資料である。

○指導について

導入では、事前に授業で行った「夢への探求」と「独りぼっちの寂しさ」についての振り返りを行い、資料「手品師」への導入を図る。

展開前段では、後に話し合う手品師の心の変容を考えることが出来るように、男の子の手品をととても楽しみにしている気持ちと、安易に約束してしまった手品師の気持ちを対比させて考える。その後、「男の子へ行く」か、「マジックショーへ行く」かについての気持ちと起こり得ることをウェビングでまとめさせ、自己の考えを広げ、深めさせるために児童間の交流を図る。

展開後段では、何が手品師の行為を変えたのか、手品師が見つけた大切な心について確認させる。

終末は、これまでの自分とこれからの自分を考えさせ、実践意欲につなげるようにしていきたい。

4 ねらい

夢、男の子との約束、どちらをとるかという手品師の心の葛藤について考えることにより、自己利益を超えたすがすがしい心を感じ、自分もそんな心をもって行動したいという実践意欲をもたせる。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 <small>期待される児童の姿(教師の願い)</small>
導入	1 前時までに考えてきたことを振り返る。		・前時までに2時間授業を仕組む。この教材の「手品師の立場→夢への探求(1時目)」「男の子の立場→ひとりぼっちの寂しさ(2時目)」での振り返りをし、資料への導入を図る。
	2 資料「手品師」を読んで考える。 (1) 手品師と男の子の生活について	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">手品師はどんな心を大切にしたいのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手品師と男の子はどのような生活をしていましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・手品師はパンも買えないほど貧しいが、夢を大切にしている。 ・男の子は家族が誰もいなくてひとりぼっちで過ごしている。 ○明日の約束をした時、2人はどんな気持ちだったでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・手品師はひまだし行ってやろう。 ・男の子は<u>とっても楽しみだ</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で話合っていく形式をとるため電子黒板を活用した資料の確認、発問の提示を行う。 ・たった一人の男の子ために夢をあきらめるのかという切り返しをかける。 ・それぞれの生活や立場について実感を伴わせるために、前時までに学習したことを押さえながら考えさせる。 ・今後の手品師の心の変化を捉えさせるために、現段階では安易な気持ちの約束であることを理解させる。
展開	(2) 手品師と男の子の気持ちと起こりえることについて 【書く活動①】 【話し合い】グループ ↓ 全体	<ul style="list-style-type: none"> ○男の子に披露する場合、手品師と男の子の気持ちや起こり得ることは。 <ul style="list-style-type: none"> ・男の子は嬉しい。 ・手品師も嬉しい。 ・夢が叶わない。 ・男の子が喜ぶ。 ○マジックショーに出演する場合、手品師と男の子の気持ちや起こり得ることは。 <ul style="list-style-type: none"> ・手品師は嬉しい。 ・男の子は悲しむ。 ・夢が叶う。 ・男の子はもっと暗く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちは○，起こりえることは□で書かせ、ウェビングしていく。 ・児童間での交流をし、新たに追加・修正がある場合には朱書きで行う。 ・児童の数人のウェビングを全体で確認し、手品師の思いや葛藤を共有する。
	3 自己を振り返る。 【書く活動②】	<ul style="list-style-type: none"> ○手品師が男の子にマジックを見せにいったのはどんな心を大切にしたいからでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分よりも相手を大切に思う心。 ・小さな約束でも必ず果たす心。 ・どんな約束も大切だと思う心。 ・相手のことをじっくり考える心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな心を見つけたかを数人に当てて共有し、手品師が大切にしたい心は何なのかを簡潔に書かせるようにする。
終末	4 今後に向けて考える。 【書く活動②】		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの自己の経験をもとに、自分も手品師のような心でいたいという憧れの気持ちをもっている。 ・これまでの自分を振り返らせていくことで今日学んだ心についてふれさせるようにする。